

おらみネット

●発行日 / 2012年6月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

元気印 NPO ①

本当にやりたい
学童保育を実現

子育て支援

特定非営利活動法人

子育て・子育てサポート
きらきらクラブ

②

m i f a t / モファア

NPOのIT活用術

株式会社 余呉バス

世間よし / 企業の社会貢献

⑥



⑤

特集★OHMI視点①
滋賀県のNPO法人の
今をご紹介します。
滋賀県のNPO法人現状調査から

①

元気印 NPO ③

1人1人のもつ力で
地域を元気に

環境学習

山内エコクラブ

⑥

元気印 NPO ②

多くの人に自転車の
良さを広めたい

地域づくり

輪の国びわ湖
推進協議会

④

滋賀県のNPO法人の 今をご紹介いたします。

滋賀県のNPO法人現状調査から

東日本大震災から、市民も地域の公共を担う存在として市民活動への役割と期待が大きくなっていきます。日頃の人と人とのつながり、防災の取り組み、災害時の支え合いなど、これまで行政が行ってきた公共を市民一人ひとりが主体的に支え、つくる側になる「新しい公共」が期待され、広がる時代になってきました。淡海ネットワークセンターでは、公共の担い手であるNPO法人の現状について調査を行いました。その調査結果と調査報告会(会)の基調講演をご紹介します。



川北 秀人(かわきた ひでと)さん

1964年大阪生まれ。1987年に京都大学卒業後、(株)リクルートに入社。国際採用・広報・営業支援などを担当し、1991年に退職。その後、国際青年交流NGOの代表や国会議員の政策担当秘書などを務め、1994年にIHOE設立。大小さまざまなNPOのマネジメント支援を毎年100件以上、社会責任志向の企業のCSRマネジメントを毎年10社以上支援するとともに、NPOと行政との協働の基盤づくりも支援している。

DATA

「滋賀のNPO 今とこれからを一緒に考えませんか！
～滋賀県のNPO法人現状調査
中間報告会&意見交換会～」

- ◆日時：2012年3月22日(木)
13:00～16:30
- ◆場所：県民交流センター
(ピアザ淡海)207会議室

基調講演

「NPOは十年後のよりよい滋賀づくりに貢献できるか？」 協働・総働で地域づくりをすすめるために

——HOE「人と組織と地球のための国際研究所」代表

川北 秀人 さん

すべての人に

「居場所と出番」がある社会へ

二〇一〇年に鳩山元首相によってまとめられた「新しい公共宣言」の冒頭は、「新しい公共が作り出す社会は『支え合いと活気がある社会』である。すべての人に居場所と出番があり、みなが人に役立つ喜びを大切にする社会である」という言葉で始まります。ここに示されている社会像は、十七年前の阪神大震災でまちなも仕事も生き甲斐も失い、孤立状態の人が増えていた時に、「すべての人に居場所と出番を作ろう」と兵庫県内で市民団体が活動を始めた時からめざしてきたものです。東日本大震災に被災した

今こそ重要性が高いのは、官と民とが、もう一度目線をあわせることです。

日本社会の最大の試練は、少子化と高齢化です。少子化の最大の理由は、非正規雇用が昨年末に三五・八%に達し、その多くが二十～三十歳代と、子どもを生みたいけれど経済的な不安のために産めないという状況。次に大きな理由として、親の介護への不安が挙げられています。滋賀県も、二〇二〇年には生産人口二・三人で一人の高齢者を支えることとなります。全国的には、七十五歳以上の方(後期高齢者)の三人に一人がひとり暮らしという地域も出てきます。こうしたの安全と安心をどう守るか。行

自分が住み続ける

地域の未来のために

政とNPOが一緒に「協働」という指針をよく見ますが、二者協働である必要はありません。地域の多様な人、団体、専門家などが関わり、くらしを支える「総働」をしましょう、と呼びかけています。

鳥根県雲南市は、二〇〇五年に六つの町村が合併して誕生した人口四万一千人、高齢化率約三十三%の市です。ここでは「地域自主組織」が、かつて公民館やコミュニティセンターだった「地域交流センター」二十九か所を、生涯学習だけでなく自治を担う拠点として運営しています。地域自主組織は、自治会・町内会が、商工会や農協の婦人部や消防団、PTA、地域のサークルなど地域に関わるすべての団体が参加して構成・運営されています。地域自主組織ではいろいろ

ろおもしろい取り組みをしています。中野という地域では、JAの支店が閉店してしまい、地域自主組織が家賃を払ってそこを借り、毎週木曜日朝九時から午後三時までの六時間だけ営業を始めました。地域の方が作った野菜や手作り味噌など約五十品目でスタートし、今は生協の移動販売車を招いて、約百五十品目が販売されています。店内には、「百円でお茶飲み放題コーナー」が設けられ、おしゃべりしながら時間を過ごせる。買ったお弁当を食べてもいい。六百人ほどの集落で週に六時間しか営業していないのですが、開店から三か月経っても、日商は七万円もある。コンビニエンスストアなどの客単価から考えれば、すごいことです。この人たちは、自分たちが買物難民にならないための寄り合い場所を、行政からの補助金ゼロで作っている。



特定非営利活動法人
子育て・子育てサポート
きらきらクラブ

代表 ● 和治佐代子(わじ さよこ)
設立 ● 2007年
会員 ● 13名
連絡先 ● 高島市今津町弘川204
TEL&FAX : 0740-22-1226

子どもたちの出会い・成長・旅立ち
そのきらきらの瞬間を
そばでまっすぐ見つめていたい



▲「フェスタにお出かけ!今日は僕が押すよ!」お祭り会場までみんな一緒に…

高島市では、京阪神からの転居世帯の増加、長時間労働による大人の余裕のなさ、ご近所の連帯の弱まりといった環境の変化などを背景に、学童保育施設の利用が急増しています。そうした中で、「保護者がゆとりを持って子育てができる手助けをし、安心できる大人の見守りの中で、子どもたちが自分で考えて人生を切り拓いていく力を身につけられる場をつくりたい」と、4か所の施設を運営しています。

旧今津町社会福祉協議会(社協)が運営する学童保育で指導員をしていた和治さんが、数年間の活動で得た同じ志を持つ仲間とともに、高島市の合併を機にNPO法人化を決定。その一番の理由は、「和治さんたちが本当にやりたい学童保育を実現できる」と社協が後押ししてくれたことだそうです。

本当にやりたい学童保育とは、子どもたちが中心の学童保育、そして障がいがある子どもたちも尊重され、共生できる環境づくり。NPO法人化以降、通常の学童保育に加え、養護学校や不登校の中高生が参加できる事業、障がい者等の家族の就労支援・介護の一時的な負担軽減を図ることを目的とした日中一時支援事業なども行っています。



▲「6年間の思い出に…ハイ!チーズ!」[6年生送る会! 記念に一枚!]

必要とされている場所を継続していくためには、誰かの個人的な思いだけで成り立つような活動ではいけないと考え、若手スタッフを中心とした運営体制への移行を模索中だとのこと。社協、市役所、地域住民と良好な関係を築きながら歩むその足元はしっかりと地域に根を張り、まなざしはまっすぐ子どもに向かっています。

(おうみネットサポーター 小林由季)

沖繩県那覇市に、真地(まーじ)団地という市営住宅があり、四百世帯がくらしにいらっしやいます。その自治会では、孤独死を出さないようにと、十年ほど前から、各棟に見守りの支援者を任命して、民生委員さんや新聞や牛乳の配達の方、水道の検針担当の方などにも協力してもらい、ご本人同意のもとに、ひとり暮らしの高齢者に関する情報共有を行っています。その中から「みんなでお茶を」と声が出て、毎週木曜日に「ふれあいデイサービス」として集会所でお茶のみ会。金曜日は材料や調理を協力し合って「百金食堂」と名付けた百円での昼食会、そして昨年末からは、土曜日に

カラオケ会。ひとり暮らしのお年寄りでも、年間百五十日外出する機会をつくっています。

何をなすために、何が足りないのか?を明確に

さて、滋賀県の特定非営利活動法人現状調査の中間報告をお聞きして、少しお話しします。NPOにまつわるよくある話として、資金や人材が足りない、人材育成ができないと言われます。では「何を実現するためにどれくらい必要ですか?」と聞くと、「えっ?」という回答が八割、荒唐無稽なものすごい大きな数字を言う人が一割、ものすごく小さい数千円なんて金額を言われるのが一割。

つまり、一体、何を実現するために、どれだけ集めないといけないのかが、団体として検討されているのか?とお聞きしたいのです。「何のために?」つまり団体の目的・目標の合理性・具体性が問われているのです。

NPOは
社会の一步先を見て

NPO、市民活動は、公益かつ非営利の活動を継続する組織です。では公益とは何でしょう。利己ではなく、利他です。市民活動団体には二種類あって、自分のしたいこと(ウォンツ)をする同好会やサークルと、誰かが求めていること(ニーズ)に答えていくNPOとに分か

れます。NPOは本来、自分たちの力で、社会や地域が求める理想の実現や課題の解決に結びつけていくものであり、地域との接点をちゃんと説明できることが大事です。

二十一世紀が市民の世紀や市民社会の実現のときとなるためには、誰かが運営してくれる社会ではなく、私たちが主体的に社会に関わることが不可欠。市民がサービスを受ける社会が市民社会ではなく、市民が担い手になる社会が市民社会です。だからこそNPOは、一步先の視野を持って、これから社会に何が起るのかを見通し、半歩先のプログラムを提供できなければと思います。

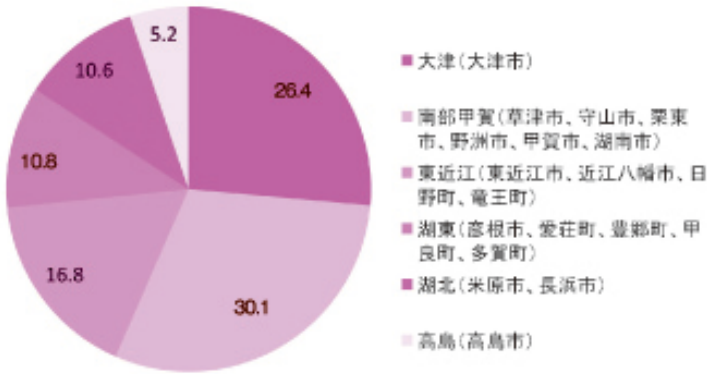
滋賀県NPO法人の実態及び支援ニーズに関する調査から

淡海ネットワークセンターでは、滋賀県新しい公共支援事業を受託し、2011年12月から2012年3月、滋賀県のNPO法人(557団体)を対象に、運営上の課題についてアンケート調査を行いました。また、NPO法人の収入や活動にかかる経費について各NPO法人が滋賀県に提出し、インターネットで公開されている事業報告から分析しました。調査対象557団体のうち、事業報告書調査の回答数は554団体、アンケート調査回答数は289団体(うち有効回答数287、回答率51.5%)でした。図中の(n)は調査できた団体数を表しています。

※「平成23年度滋賀県NPO法人の実態及び支援ニーズに関する調査」(PDF)は当センターのホームページにて公開しております。

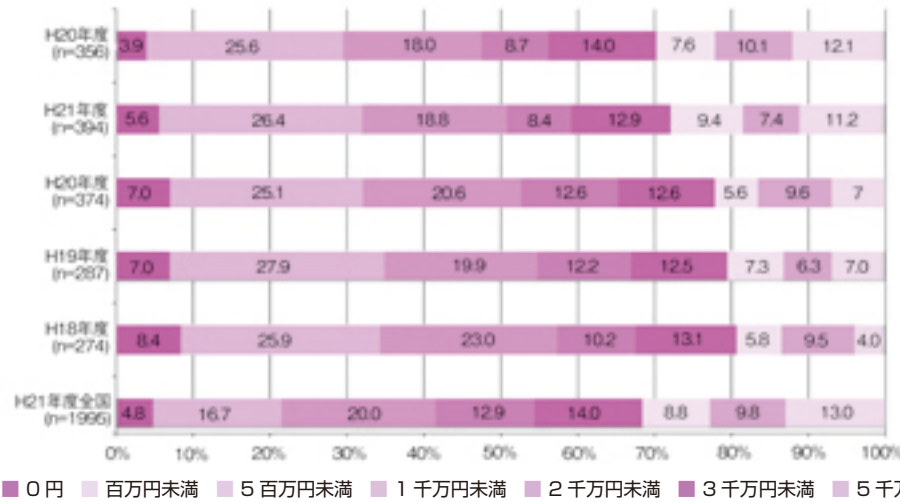
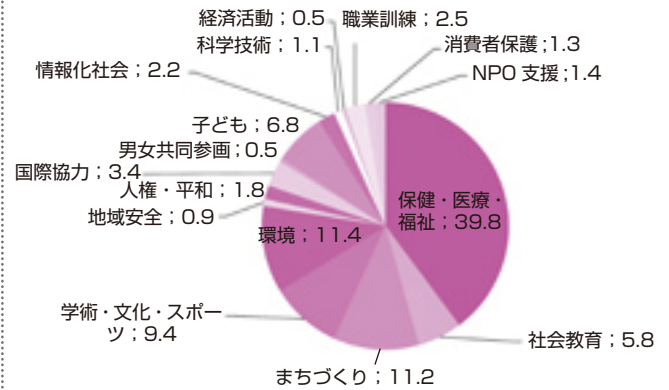
■地域別にみた法人の比率(% , n=554)

NPO法人の事務所が最も多く置かれている地域は、「南部甲賀地域(草津市、守山市、栗東市、野洲市、甲賀市、湖南市：30.1%)」です。一方で、大津市内に事務所を置く法人は全体の26.4%を占めており、単独の市町村としては最も多くなっています。



■主要な活動分野(% , n=523)

主な活動分野は、「保健・医療又は福祉の増進を図る活動」が全体の39.8%を占めています。その他の分野では、「まちづくりの推進を図る活動(11.2%)」、「環境の保全を図る活動(11.4%)」が比較的高い比率となっています。(主要な活動分野は各団体の事業報告から選びました。)

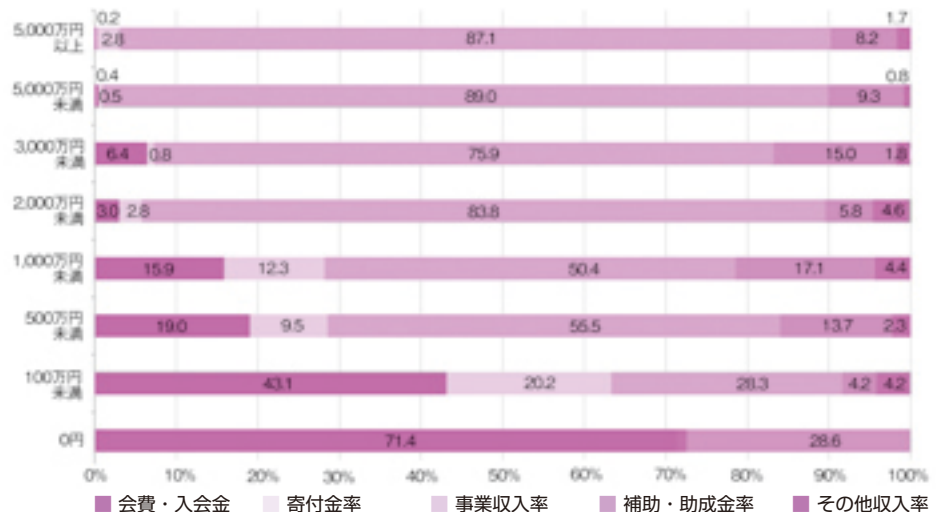


■経常収入規模の比較 (% , 対全国調査：平成21年度データ)

年間収入の規模別では、最も比率が高いのが「100万円未満(1円～100万円未満)」です。年度別にみると、特に500万円以上の規模の比率が増加傾向にあります。内閣府の全国調査の結果(平成21年度データ)と比較すると、滋賀県は「100万円未満」の比率が高い傾向です。

■経常支出規模別の収入比率 (% , 平成22年度)

経常支出規模別に収入比率(経常収入に占める各収入費目の比率)をみると、経常支出規模が大きいほど事業収入率が高まる傾向があります。





代表●近藤隆二郎(こんどう りゅうじろう)
設立●2009年 構成団体●12団体
連絡先●彦根市中央町7-40
NPO法人五環生活内 TEL・FAX: 0749-26-1463
E-mail : info@biwako1.jp
URL : http://www.biwako1.jp

自転車は楽しい。 ちょっといい自転車で びわ湖一周に出かけよう！

みなさんは「自転車」ってどんな乗り物のイメージですか？
ママチャリでごく近距離を移動するためのもの？

あるいは競輪選手のような格好で全速力で走るものでしょうか？



▲サイクルモード出展

輪の国びわこ推進協議会では、自転車を「速い、楽しい、うれしい、気持ちいい」ものだと捉えて、滋賀が誇るびわ湖を自転車で一周すること(通称：ピワイチ)を主軸として、楽しい自転車ライフを提案しています。

はじめてびわ湖一周サイクリングをする際には、まずは情報が必要です。そこで協議会では『びわこ一周サイクリング公式ガイド ぐるっとびわ湖自転車の旅』を出版しました。はじめて一周する人のための基礎知識やおすすめプラン、協賛ショップなどを紹介しており、これがあれば安心してびわ湖一周に出かけられます。そして一周した人には、協議

会がびわ湖一周サイクリング認定証と特製ステッカーを発行しています。一周した証がもらえるのは嬉しいですね。

協議会の構成団体は、環境系のNPOや行政、



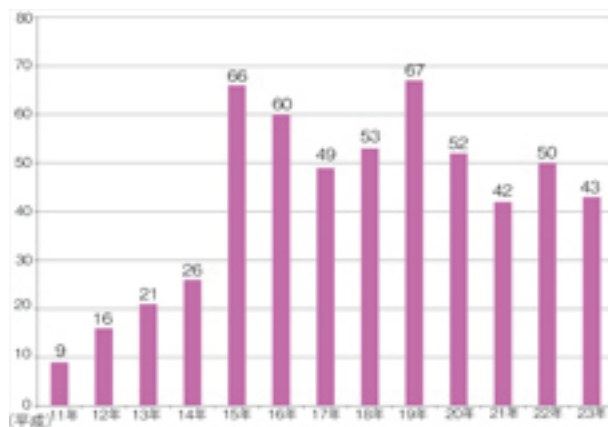
▲びわ湖一周サイクリングの途中で

観光や自転車の推進団体など、多種多様です。そんなメンバー全員に共通しているのは「自転車が大好き！」であるということ。お話しているだけで、自転車に乗ってびわ湖の風を感じる心地良さや美しい自然の風景、人との出会いなどをイメージできました。「もっともっと、多くの人に自転車の良さを広めたい」「ロングライドからスローライドへ」と今後は語るみなさんの目の奥には星が輝いていました。

(おうみネットサポーター 小林政夫)

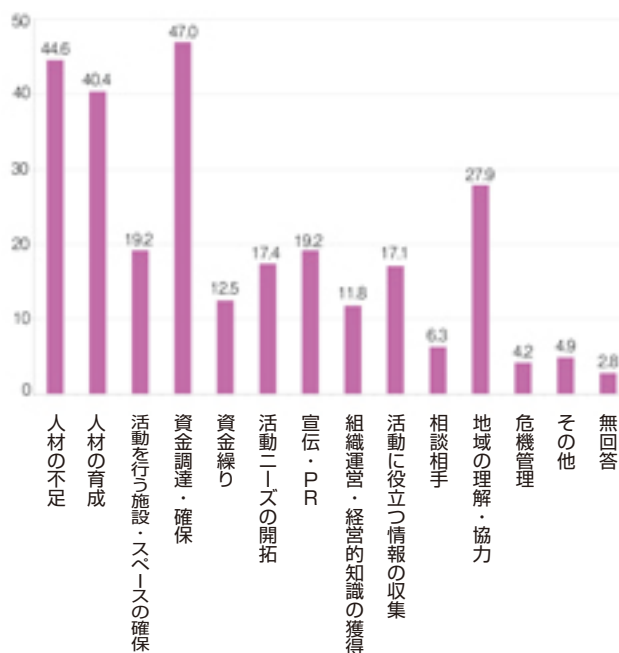
■設立年別の法人設立数(n=554)

滋賀県ではNPO法人が最も多く設立されたのは、「平成19年(67団体)」。つづいて「平成15年(66団体)」、「平成16年(60団体)」となっています。



■運営上の課題(% , n=287)

運営上の課題として最も多いのは、「資金調達・確保(収入が少ない、資金が集まらないなど)(47.0%)」であり、「人材の不足(スタッフが足りない、思うように集まらないなど)(44.6%)」、「人材の育成(スタッフの技術・能力を向上したいなど)(40.4%)」とつづいています。



二〇二二年度は、この調査の結果をふまえて、各団体がより安定して継続的な運営ができるよう支援を行っていきます。市民から広く寄付を集めて安定した活動につなげる認定NPO法人を目指す支援、サービス提供や販売など市場をとおして事業を充実させる市民事業化支援などを行います。

市民活動への期待

「先達の力をもっと地域に」

実家の父のことを書こう。父は71歳である。大病をして65歳で退職したものの、健康を取り戻すにつれて「働きたい」と言うようになったが、実際は選挙の期日前投票の係員になれたくらいである。今も「解散総選挙」を心待ちにしながら、近所に新しくできる予定のスーパーに問い合わせなどを行っているらしい。そういう話を聞いたときに、無理だよ、お父さん…と思いつつも、高齢社会・日本に生きる多くの高齢者は、一体どうしているのだろうか？と思う。

意欲があるうちはいい。しかし、場が与えられなければ、そのうち意欲も萎え、生活が不活性化し、健康にも悪影響を及ぼしかねない。悠々自適の引退生活を過ごせている人ばかりではないだろう。年齢を重ねるにつれて、様々な面で個人差が広がるにもかかわらず、「高齢者」と一括りにされてしまうことの弊害は大きい。父のように、仕事一筋で勤め上げて、それ以外の場を持たず、それなりの健康とやる気を持って余している人、そういう先達に何とかもう一肌脱いでもらえないだろうか。肩車型社会への移行をいたずらに懸念するよりは、高齢者は常に上に乗るもの、支えられるものという前提を変えるほうが早い気がしてならない。



地域力を高める メッセージコーナー

同志社大学社会学部
教授 浦坂 純子(うらさか じゅんこ)さん

世間よし ~企業の社会貢献~

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

株式会社余呉バス

滋賀県長浜市余呉町中之郷1152-1 TEL:0749-86-8066
URL : <http://www.zb.ztv.ne.jp/yogobus/>

市民と共に歩むバス 余呉バス

ちょうど2年前、おうみネット72号で「まちのバスを考える～市民でつくる公共交通～」のテーマで余呉バスを掲載した。舞台となる余呉は、合併によって長浜市に編入され、現 長浜市余呉町であり、人口は2年前の約3,900人から急激な高齢化、過疎化が進み、現在、約3,600人となった。それでもなお地域のあしとなり休むことなく走り続ける余呉バス取材した。「利用する方がいるかぎり。」株式会社余呉バスの代表、木下重樹さんはそう力をこめる。

余呉バスの経緯は、JRバスが赤字増加で撤退、その後、余呉町が湖国バスに委託して運行するも、赤字の増加はとまらない。バス運行への批判の声があがったという。その時に余呉町出身でJRバス勤務経験を持つ木下さんが、当時の余呉町が呼びかけた公共交通再編研究会に参加したことをきっかけに株式会社余呉バスを資本金



▲余呉バスの観光専用バス

100万円で設立。余呉バスは運行方法、価格、時間などを市民と一緒に考える、市民と一緒に歩むバス会社となった。出資も会社からという声もあったが、「どうなるかわからないので」と木下さんは一人で設立を決意した。

現在、4年目、余呉バスは、設立から決めた片道200円という運賃は変わらず、19集落全ての路線を運行している。現在、バスの台数は10台。経営努力のために観光バス事業もはじめた。大阪の旅行者と一緒に余呉の魅力を伝えるバスツアーにも取り組んでいる。木下さんは、「少子高齢化はとめることが難しいが、余呉の魅力を伝えることで余呉を知ってもらえるきっかけをつくりたい。」とまゆをほそめる。

また、市民からのアンケート調査をした結果、平和堂に乗り入れ、買い物ができるように要望があった。余呉バスは行政と市民の橋渡し役として、行政と交渉し、今では見事、平和堂までの買い物のあしを利用者に提供している。「余呉バスの使命は利用者がいる限り、生活のあしを提供し続けること。そのために市民の意見を聞いて、そして企業も行政も一体となって、みんなでバスを育てる。」、そう木下さんは言う。好きな言葉は「感謝」。これからも市民に寄り添いながら余呉の未来を見据えていく。
(淡海ネットワークセンタースタッフ 膽吹 憲吾)



▲余呉バスの木下社長

代表●竜王真紀(りゅうおう まき)
設立●2009年
メンバー●22人
連絡先●甲賀市土山町黒川2063
TEL: 090-7966-2262
E-mail: ryuoh-mtm@maia.eonet.ne.jp
URL: http://www3.to/yamaeco



古里の良さを見つけて広めよう！ 子どもと大人が 一緒に進めるまちづくり

「山内エコクラブ(通称:やまえこ)」は、小学校の環境活動として誕生しました。市民活動に詳しい当時の校長が仕掛け人です。自然豊かな山内地域に伝わる水文化を高齢者から聞き取り、寸劇風にまとめて環境分野の全国大会で発表。初出場にして見事「準グランプリ」を獲得しました。こうした活動に同行していた母親が自然と運営側に引き込まれ、自主活動グループへと発展しました。代表の竜王真紀さんは「様々な大会に行くたび、多くの刺激を受けて新しい生き方が広がりました。楽しませてもらっています」と笑う。



▲山内エコクラブの皆さん。子供と大人が元気づけあいまちづくりを進めている。

活動の主軸は、地域資源の「見える化」だ。「山内は何もないところ」と多くの住民が口にする地域の魅力を掘り起こす。知恵や経験を持つ高齢者から昔の暮らしを聞き取り、飛び出す大型絵本や狂言、創作劇などにして地域内外で発信しています。県のエコクラブ大賞の受賞や新聞掲載などで、山内地域に新たな風が吹き始めました。

「もっと元気な地域にしていこう」と仲間が現れ、新事業として地域の特産品づくり「やまえこカンパニー」が始まりました。平均年齢65才以上のハンドベル楽団「ふらんしーず」や家庭料理グループ「お結びの会」も誕生しました。「1人1人のもつ力が発揮され、夢と生きがいのある地域、多



▲聞き取り調査の様子。お年寄りは子どもたちのために一生懸命話をする。住民が地域を見直すきっかけにもなっている

くの人が訪れる地域にしていきたい」と竜王さん。自然環境のエコの範囲にとどまらず、地域全体のより良い環境づくりを目指す「やまえこ」。進化する地域活動団体として、ますます磨きがかかっています。

(おうみネットサポーター 中塚一恵)

NPOのIT活用術！

m-fat / モファ
<http://m-fat.org/>

サイトを見たことから交流が
生まれる工夫が盛りだくさん！



地域社会にアートの根を広げようと活動するアーティスト集団「m-fat (モファ)」のホームページは思わずどこかをクリックしたくなる楽しいデザイン。報道機関向けの情報を見やすく掲示しているほか、アーティスト紹介やイベント会場紹介など最新情報はブログに掲載しています。IT担当の犬飼さんによると、こうした情報発信でボランティアや取材の申込み、さらに企業からの提案もあったそうです。SNSも積極的に取り入れ、スタッフ各自がアカウントを持ち、団体アカウントと連動させながら、双方向の交流に活用しています。特にイベント開催前後には鮮度の高い情報を、ツイッターの「リツイート」やフェイスブックの「シェア」などで確実に受け手に届けているということです。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

人と向き合い、地域と 向き合った10年

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

2期生 南部 厚志(なんぶ あつし)
グループ: ネットワーク夢創

おうみ未来塾に入塾させていただいたのが37歳だったと思います。

現在48歳になりました。「地域プロデューサー」の言葉に微妙に反応し、自分も地域のために何か出来るのではないかと、人の役に立つ事が出来るなら学んでみたい、その頃がぼくの人生にとって大きな変化の時期でした。その後、町の議会を経験し、首長も経験しました。ぼくの人生にとって良い経験と言うよりは、良い勉強でした。



現在は、単身東京で、「下水道の余剰汚泥を出さないシステム」など環境事業を行ないながら、自治体改革のお手伝いをしています。また、「日本みらい研: <http://jfupec.com/>」という社団法人を立ち上げ、「みんなのでつくる日本の未来」を合言葉に、中小企業の皆さんが霞が関や永田町とパイプを持つお手伝いや、次世代のリーダー育成に取り組みながら、誰かに任せられるのではなく、自らの事として日本の未来の在り方を考えています。未来の社会を担う世代が少子化によって大きく減少しています。近未来のわが国は、支える世代の減少から現在の制度設計では立ち行かなくなることは必至です。今からできるだけ負担の少ない社会を実現する事が大切です。自らの経験から感じた事に正直に向き合い、道半ばであった自治体経営のあり方を環境事業から提案し、微力ながら国の未来の在り方を社団法人というフィールドで考え、行動しています。

この10年間人と向き合い、地域と向き合った、あつという間の10年でした。これまでの良い学びの場に感謝するとともに、環境事業と社団法人の活動で今日までの恩返しをしたいと思っています。

お知らせ 理事の代表権喪失登記が必要です！

すべてのNPO 法人必見事項

平成24年4月1日NPO法改正施行により、理事の代表権喪失登記を行う義務が発生する場合があります

＜どんな場合に必要ですか？＞

定款に、理事長や代表理事のみが代表権を有する法人と定めがある場合
＜期限はいつまで？＞

平成24年4月1日～10月1日(月)の6ヶ月以内。これを過ぎると過料(20万円以下)の対象となる他、認定NPO申請時に問題となります。

＜具体的にはどうすればよいのか＞

代表権を有する理事以外の平理事について「平成24年4月1日代表権喪失」とする変更登記を行う

＜必要な書類は？＞

①定款 ②代表権を有する理事を選定した書面 ③代表権を有する理事の就任承諾書
＜その他＞

・5月末に行う資産総額変更登記等と同時にすればOK(3月決算法人の場合)

・従来通り、理事全員を代表権を有する者として登記する場合は、定款の変更が必要

※詳しくは法務局HPをご覧ください

http://www.moj.go.jp/MINJI/miniji06_00067.html

イベント おうみ未来塾12期生入塾記念一般公開講座を開催します！

市民活動が地域活性化を促し、地域運営の一翼を担うようになった今、「おうみ未来塾」は広いネットワークと創造力で課題解決に取り組む「地域プロデューサー」が育つ場を目指しています。今回は、12期の入塾を記念した一般公開講座です。たくさんのご参加お待ちしております。

◇日時：6月9日(土)受付12:30～ 開始13:00～

◇場所：コラボしが21・3F大会室 ◇参加費：無料

◇テーマ：おうみ未来塾が目指すもの

～地域の未来を創るには～

◇内容：おうみ未来塾塾長の北村裕明さんをはじめ、おうみ未来塾の運営に長年関わってこられたアドバイザーの方々が、これからの求められる地域プロデューサー像について語ります。

お知らせ 減価償却資産の償却率が変わります！

平成24年4月1日以降に取得をされる資産の定率法の償却率が見直されました。詳しくは、国税庁HPをご覧ください。

http://www.nta.go.jp/shiraberu/ippanjoho/pamph/hojin/kaisei_gaiyou2011/pdf/1112kaisei_faq.pdf

お知らせ 図書コーナー「貸出書籍増冊」のお知らせ

淡海ネットワークセンター図書コーナーより、貸出書籍増冊のお知らせです。どうぞご利用下さい。

書籍タイトル	著者
近江の祭を歩く	中島誠一、辻村耕司
あなたのパラシュートは何色	リチャード・ポウルズ
思考のフロンティア 公共性	齋藤純一
コミュニティーのちから	今村晴彦、園田紫乃、金子郁容
アイデアキャンブ ～創造する時代の働き方～	中西泰人、岩寄 博論、佐藤 益大
地域を活かす つながりのデザイン	上町台地コミュニティーデザイン研究会
ぐるっとびわ湖 自転車一週サイクリング	輪の国びわ湖推進協議会
小舟木エコ村ものがたり	NPO 法人エコ村ネットワーク
当事者主権	中西正司、上野千鶴子
ここからはじめる NPO 会計・税務	松原明、水口剛、赤塚和俊
基礎からわかる NPO 会計	馬場英朗
20代、コネなしが市議会議員になる方法	佐藤大吾
働き方革命-あなたが今日から日本を変える方法	駒崎弘樹
寄付白書 2011	日本ファンドレイジング協会

書籍タイトル	著者
下水文化研究23号	日本下水文化研究会
社会貢献でメシを食う	竹井善昭
20代からはじめる社会貢献	小暮真久
コミュニティーデザイン～人がつながるしくみをつくる～	山崎亮
NPOで働く	工藤啓
日本の田舎は宝の山	曾根原久司
パブリックスピーキング～人を動かすコミュニケーション術～	薩山洋介
ニッポンの風景をつくりなおせ	梅原真
新版コミュニティー・ビジネス	細内信孝
会計基準	会計基準協議会
社会起業家のための NPO 新公益法人 Q&A	脇坂誠也
元気な地域のヒミツ、地方自治職員研修臨時増刊号	公職研
地域診断法：鳥の目、虫の目、科学の目	鶴岡修、近江環人地域再生学座

課題に直面！と思われる場面で、「それがラッキーだったんですけれど…」という言葉は何度も聞き、逃げずにプラス思考で受けとめるやわらかい姿勢の大切さを考える機会となりました。

(おうみネットサポーター 小林由季)

車の旅もいいけれど、映画のハイライトだけを観て、あとは早送りしてしまうようでもったいない。やっぱり映画は全編観たいし、旅はその土地のすべてを感じたい！自転車の旅なら、地元人だけが知っている素敵な風景や美味しいお店と出会えるかもしれません。

(おうみネットサポーター 小林政夫)

「地域の人たちが主役となり、元気(健康)でいられる応援者になりたい」と話してくれた竜王さん。全く知らなかった市民活動の世界に飛び込み3年。自然な形で「地域プロデューサー」をされているところに深く感心させられました。

(おうみネットサポーター 中塚一恵)

淡海 **おうみネット** 82

●2012 夏号●



淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

- 〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
- TEL 077-524-8440
- FAX 077-524-8442
- <http://www.ohmi-net.com>
- E-mail:office@ohmi-net.com
- 開館時間 / 9:00 ~ 17:00
- 休館日 / 月曜日・祝日

●情報交流紙「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県民情報室など

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌「おうみネット」掲載広告募集中！

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約1,900カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください！



おたがいさまがつながり、活きる。

未来ファンド **個人の気持ち、企業のCSR**
様々な「志」を地域に支える市民活動へ、しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、淡海ネットワークセンターにお気軽にお問い合わせください。



この印刷物は再生紙を使用し、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。